

自立活動の指導について

教諭(兼)教育専門監 菅原 咲希子

自立活動は、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な力を養い、心身の調和的発達の基盤を培うことをねらいとした学習です。この自立とは、子どもたちがそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることを意味しています。一人一人の障害の状態等に応じた指導となることから、的確な実態把握のもとで、どのような力を身につけていくのが望ましいかを考え、指導目標や具体的な指導内容を明確にすることが大切です。指導内容の設定の配慮事項として、学習指導要領には次の6点が示されています。

- 主体的に取り組む指導内容
- 改善・克服の意欲を喚起する指導内容
- 発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容
- 自ら環境を整える指導内容（幼：自ら環境と関わり合う指導内容）
- 自己理解・自己決定を促す指導内容
- 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容

授業時間を特設して行う自立活動の時間だけでなく、学校の教育活動全体を通じて行い、各教科等とも密接な関連を図って行われることが必要です。

自立活動の実践例を紹介します

小学部の取組

小学部では、自立活動と、日常生活の食事や着替え、コミュニケーションなどの課題と関連付けて取り組んでいます。

秋田県立きらり支援学校の藤原専門監からの指導助言を受けて、改善した実践を紹介します。

【Aさんの課題】 食事の際、こぼれる量が多い。唇が閉じず、食べ物を口の中にいっぱい入れてしまう。

指導助言…姿勢が安定するようにテーブルの高さを調節する。使いやすい食器を使用する。

- 姿勢が安定するように、テーブルを肘が乗る車椅子に取り付けるタイプにした。スプーンを持つ手が震えなくなった。
- 曲げて使えるスプーン（自助具）を使用した。
- スプーンを置く位置が舌の真ん中になり、口から食べ物が出なくなった。



【Bさんの課題】 立位での着替えの際、姿勢が不安定であり、衣服の前後などを間違えやすい。

指導助言…座面が広く、低い椅子にすると、姿勢が安定して自分の足やズボンの穴が見えやすい。

- 使い慣れた自分の椅子と机を使用して、着替えに取り組んだ。机の上に上着を置いてから、腕や頭を通すようにしたところ、衣服の前後の間違いが減った。自分の椅子に座り、姿勢が安定し、ズボンの穴に足を通しやすくなった。
- 着替えの場所を仕切ったことで、取り掛かるまでの時間が短くなった。



中学部の取組

中学部では、教育活動全体を通して自立活動に取り組んでいる生徒が多いです。友達との関わりを深めたり、自信をもって取り組んだりするための教材等を紹介します。

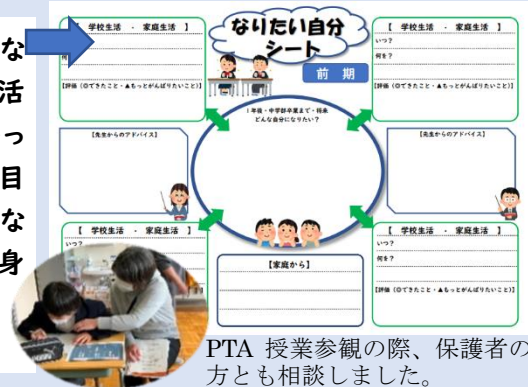
イワナとりゲーム 金のイワナは3点、銀のイワナは2点



1年1組 0点 1年2組 0点
2年1組 0点 2年2組 0点

宿泊学習の事前学習で取り組んだ教材です。対人関係を円滑にし、集団参加に課題がある生徒にも有効だった教材です。学習支援アプリ(ロイノート・スクール)を使って作成しています。学級対抗で「神経衰弱」を行い、点数化して勝敗を決めます。自分から周囲の人に話し掛けてめくるカードを決めたり、絵カードがあったときに称賛され、喜びを共有したことで自信につながったりし、学校生活を楽しむことができました。

『なりたい自分シート』は、将来なりたい職業、1年後どんな自分になっていたかなどをイメージし、学校生活や家庭生活でどのように取り組んでいくかを明確にするシートです。「かっこいい高等部生になりたい」「姿勢のいい自分になる」など目標を達成するため具体的な場面や内容を教師と話し合いながら決めていきます。保護者からも協力を得ながら、生徒自身が主体的に自立に向けて取り組んでいくためのツールとして活用しています。



PTA 授業参観の際、保護者の方とも相談しました。

高等部の取組

高等部では週4日、朝の25分間、自立活動の時間を設定しています。個々に応じた目標のもと、目標内容に近い生徒、集団で活動した方が効果のある生徒は学級内の小グループで学習しています。

<活動内容>ブロックの組み立て

<ねらい>

- ・説明書を読み解きながら組み立てる。…区分4(5)
- ・手指の力加減、細かな動きを促す。…区分5(3)

<生徒の実態>

- ・聞くよりも、見て理解する方が得意である。
- ・身体が大きく、ポロシャツのボタンをうまく留められなかったり、書字が大きくなったりする。

<活動の実際>

- ・ブロックは種類と難易度が多くあるため、説明書を読み、自力で完成させる達成感と楽しみを感じながら継続して取り組んでいる。



<活動内容>ボッチャ

<ねらい>

- ・相手のことを考えた言葉を掛ける。…区分3(2)(4)
- ・ジャックボールを見て、近付けるように投げる。…区分5(3)

<クラスの実態>

- ・相手の立場や状況を考えた言葉を掛ける経験が少ない。
- ・ボディイメージや物や人との距離感をつかむ力が弱い。など

<活動の実際>

- ・一人一人の指導目標は異なるものの、ボッチャという競技を通じて、それぞれの目標に迫ることができている。